

保護者の要望に合わせた幼稚園、こども園、保育園の定員の見直しを

幼稚園、こども園、保育園の再編について

館山市の公立幼稚園は、小学校の敷地内、または近隣に併設されてきました。現在は、その一部が保育園と連携したこども園になっています。

学校再編に合わせて、これらの保育施設も見直すことが必要です。低年齢からの保育需要が多くなり、2年制の幼稚園は、大きく定員割れをしています。令和7年度から、北条幼稚園と中央保育園を統合した、公私連携幼保連携型認定こども園もスタートします。保護者のニーズに合わせた保育環境の整備が求められます。



館山市立北条幼稚園

燃さないごみ処理で、CO2を削減と焼却炉の長寿命化を

家庭から出る食品ゴミ、草、剪定枝のたい肥化について

〈燃せるごみの組成分析〉



現在清掃センターの焼却炉を改修中で、可燃ごみを市外の処理施設に運んでいます。運転停止期間中の処理費用は1億6千万円を見込んでいます。改修後は15年くらい使用可能とされていますが、これをより長持ちさせたいと思います。

鹿児島県の大崎町では、厨芥類、草を剪定枝とともにたい肥化しています。CO2の排出を削減できるだけでなく、焼却炉と比べてかなり経費も抑えられます。これを実現するには、住民の理解と協力が不可欠です。市民と一緒にごみについて考えて環境にやさしいまちづくりを進めるべきです。ごみを削減すれば、運転停止している3か月間にかかる処理費用も減らせます。

令和4年度決算について

令和4年度も国からの新型コロナ対策費、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金など国からの交付金はありましたが、前年度よりは減少したため、歳入235億8,430万6千円(前年比1.6%減)、歳出227億2,103万4千円(前年比0.7%減)となりました。

市の貯金である財政調整基金は約5億円増えたものの、今後は館山中学、道の駅グリーンファームの建設、焼却炉の改修工事など大規模事業が重なることで多額の支出が予想され、厳しい財政状況は続きます。

主な補正予算

公私連携幼保連携型認定こども園施設整備事業……1億3,122万7千円
(北条幼稚園と中央保育園を統合してできるこども園の施設整備)

土木施設災害復旧事業……5,280万円
(令和5年台風13号による被害の復旧工事)

那古山治山事業……1,500万円
(令和元年台風で崩れた那古山登山道の修復)

電気料高騰対策費……1,241万3千円
(市の施設にかかる電気料金の高騰を見越した予算)

使用済み紙おむつ処分事業……157万3千円
(市立こども園・保育園で、使用済み紙おむつを園で処理することになりました)

出産・子育て応援給付金事業……1,202万7千円
(令和5年10月～令和6年3月に妊娠届を提出した妊婦、同期間に生まれた子どもの養育者1人当たり5万円支給)

みんなの暮らしのために



おわりに

孤立を防ぐための「居場所」を地域に作る必要があります。災害時にも「ご近所」が多く命を救います。

今年は多くの地域で久々に「祭り」が行われました。人々がつながり、互いに協力し合うことが活性化

につながることを再確認できたと思います。しかし、地域によっては神輿の担ぎ手を集めるのに四苦八苦したという話も聞きました。高齢化、人口減により、「コミュニティ」の存続が危ぶまれる地区もあります。改めて「ご近所」を見直してみませんか。

